

# いきいき 行田人

## 第22回国連子供環境ポスター原画コンテストの アジア太平洋地域部門で2位を受賞

吉田光甫さん (15歳・門井町)

「生命の源『水』」それはどこからくるの？」をテーマにした第22回国連子供環境ポスター原画コンテスト。今月は、110カ国の子供たちが応募した全69万7千876作品の中から、アジア太平洋地域部門で2位に輝いた吉田光甫さんを紹介いたします。

気付けばペンを握っているほど、絵を描くことが生活の一部になっている吉田さん。中学校では美術部員として部活動に励む傍ら、生徒会の文化局長を務め、月1回発行する生徒会新聞の4コマ漫画の制作を担当していました。

同コンテストの存在を知ったのは、中学1年生のときでした。第21回の募集チラシに掲載されていた過去の受賞作品を見て「同年代なのに、こんなにきれいな色使いができるなんて」と衝撃を受けたそうです。「私も挑戦してみたい」という思いから応募を決意。そして、海の水質汚染を題材に作品を描き、国内部門中学校の部で佳作を受賞したのです。

このことがきっかけで環境問題への関心も高ま



り、血洗いをするときに油を流さないよう注意するなど、特に「水」について注目するようになったそうです。第22回の募集テーマが発表された平成24年9月、日ごろから抱いていた水への思いを表現しようと、部活動の時間を利用して何案も構図を描き始めました。

先生や友人からアドバイスを受け、半年の月日を費やして大作が完成。配色に特にこだわり、納得がいくまで何度も塗り直したそうです。「自然も生き物も、水を通じて共存している。私たちも、尊い命の源である『水』をきれいに使わなければならぬ」水や星「地球」に浮かぶ砂(水)時計を中心に、自然や生き物に恵みを与えながら循環する水の様子が美しい色合いで描かれた作品には、吉田さんの強い思いが込められています。

「世界中の人に作品を見てもらえるよう、もっと大きな目標を目指していきたい」と次のコンテストへの意気込みを語る吉田さん。「育った環境や言語は違っても、その人の考えを感じ取れるのが絵のすごいところ。いつか、国境を越えて自分の気持ちを伝えられるイラストレーターになりたいな」若きアーティストは、輝かしい未来へ向かってこれからも歩み続けます。



第22回国連子供環境ポスター原画コンテストアジア太平洋地域部門で2位を受賞した作品 (所蔵: 総合地球環境学研究所(京都府))

けずります。

### 私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へ応募ください。

#### 俳句

長野 野中せき子  
定年の顔が集まる植木市

旭町 大川 和子  
一輪の桔梗に茶室凜とする

中里 鯨 美智子  
北国の雪のかおりの便りあり

城南 関口 操  
琴の音のもれ来し庭に冬牡丹

藤原町 上原ミサ子  
ゼラニウム色あざやかに乱舞して

富士見町 森 節子  
通学の子等にまつわる枯落葉

忍 飯島 素子  
一歩づつ落葉踏みしむ登山道

長野 吉野 らん  
枯一葉ひらりひらりとつくばいに

谷郷 富山 由喜  
時雨るるや聖天の彫鮮やかに

城南 千代田富士  
枯すすき風の誘いにそつ気なく

桜町 新井 道江  
高々と袖の実たわわ庭ともし

城西 西田吉之助  
縁側に猫と仲よく日向ぼこ

持田 田子 敏枝  
雨しとど耐える野菊のいとおしく

城南 町田 達男  
宿下駄に足をとられる霜夜かな

荒木 国島 初江  
作り手の自信あふれる菊花展

持田 田中 和夫  
古希迎え喪葉書多き年の暮

城西 鈴木 正夫  
一人居の心揺さぶる帰りに花

荒木 蛭間しげ子  
文化祭男カレーに列をなす

天満 青柳 欣吾  
腰痛を宥めなだめつ障子張り

谷郷 齊藤 勲  
古墳から古墳に登る小春かな

(三沢 一水 監修)



はじめまして

平成25年  
1月生まれのおともだち



平成25年3月生まれのお子さんを募集します

- 1月6日(月)~31日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、2月4日(火)午前11時から市役所201A会議室で公開抽選を行います。

応募お待ちしております!



**本間 勇太ちゃん**(長野)  
平成25年1月15日生まれ  
父 哲也さん 母 千秋さん  
「元氣いっぱい、わんぱくボーイ!」



**小倉 来望ちゃん**(持田)  
平成25年1月30日生まれ  
父 優樹さん 母 早紀さん  
「我が家の王子さま!」



**山口 凜ちゃん**(埼玉)  
平成25年1月26日生まれ  
父 高広さん 母 綾子さん  
「おねえちゃんとなかよくね!」



**岩城 空叶ちゃん**(富士見町)  
平成25年1月21日生まれ  
父 圭佑さん 母 美貴さん  
「いたずら大好き! くらたんスマイル☆」



**大木 遙ちゃん**(佐圃)  
平成25年1月14日生まれ  
父 雅春さん 母 絵里さん  
「君は我が家のピタミン割!」



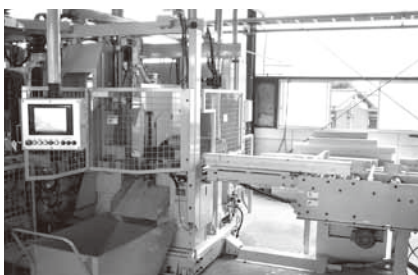
**田島 東空ちゃん**(野)  
平成25年1月30日生まれ  
父 桂介さん 母 由佳利さん  
「癒しをどうぞ!」



# ぎょうだの会社を クローズアップ!!

## 島崎木材株式会社

木の文化を後世に伝える



### 会社プロフィール

代表取締役 **島崎政敏**

事業内容 木材・新材・住宅機器・鋼材の販売、在来軸組みプレカット加工、サイディング、ALCの販売と工事、木工事、製材

断熱・調湿などに優れ、健康で快適な居住環境を提供するといわれている木造建築。その主要構造部分に必要不可欠とされる木材・建材の販売や加工・工事を行っているのが、昭和25年創業の島崎木材株式会社です。同社で扱う木材は、国産材や輸入材など多岐にわたります。年間約1万立方メートルもの木材を仕入れ、さまざまな需要家に納入しています。JAS構造用製材選別格付技士である社長の島崎政敏さんは「お客さまのニーズを的確に捉え、現場に最適な木材をタイムリーに届けるのが、私たちの役割です」と語ります。

同社の特徴の一つは、市内で唯一自社プレカット工場を保有していること。寄居町と下忍地区内にプレカット工場を開設し、大規模な物件の加工にも対応しています。「プレカット」とは、住宅の骨組みとなる部材を、コンピュータ制御のプレカットマシンによってあらかじめ切断や加工を行うことです。この技術を取り入れたことで、効率よく精度の高い木材加工が可能になり、工期短縮も図れるようになったそうです。平成23年には、最新の特殊加工機を導入し、今まで職人が手作業でしか行えなかった「台持ち継ぎ」や「追掛け大柱継ぎ」といった伝統的な継手加工もできるようになりました。取引先からは「従来のプレカットで不安のあった大梁同士の接合強度を高めることができる」と高い評価を受けています。また、同年には神社仏閣用の木材を扱う堂宮材センターも開設し、ヒノキやケヤキ、米ヒバの大本などを各地の社寺の普請に納材しています。

創業以来60余年、木への変わらぬ思いを抱きつつ取り組みを続ける同社。今後は、寄居町の拠点を生かした埼玉の木の拡販も視野に入れていくようです。これからも木の文化を後世に伝えるべく、価値ある木材を世の中に送り出していくでしょう。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。